

特集・89・職員の自主研究②

# 金沢臨海部再整備構想

もうひとつの親水空間

松本 陽 濟田寿幸 本田久美子 中川理夫 湯川光夫 関口昌幸

## 一 はじめに

私達は、約三年前、職員研修所指定の「横浜イメージアップ作戦」に応募して以来、常に「なぜ、横浜なのか」という単純にして素朴な疑問に悩み続けた。

そして結論から言えば、横浜という地名から受ける印象は、山下公園、外人墓地、中華街に代表されるように、一部の地区に偏っており、狭く浅いものであることを痛感した。

三百万人以上の人口を抱え、21世紀プランを「市是」としているわが国を代表する大都市が、このような脆弱なC Iしか持ち得ないのは問題である。

そこで私達は、敢て「この横浜」を忘れ、郊外部のイメージアップを研究対象とすることにした。

## 二 なぜ金沢区なのか

私達は、瀬谷区や栄区あるいは旭区や金沢区など、いわゆる郊外部といわれる地域こそ、その特性を生かしたC Iの確立すべき地区として、種々研究・検討を加えた。

その結果、海浜部と丘陵部に独特の特性を有し、更に次代の期待を担って、着々と都市基盤の整備が進められている金沢区が、私達の研究対象地域にふさわしいと考えるに至った。なぜ

- 一 はじめに
- 二 なぜ金沢区なのか
- 三 埋め立て海岸線の変遷
- 四 金沢臨海公園のモニュメント
- 五 八景と海の公園間の散歩道
- 六 海を舞台とした青少年の健全育成
- 七 野島山の立体的有効利用
- 八 おわりに

本稿は、本市の魅力ある街づくりの一環として考え出された「横浜イメージアップ作戦」の一考察である。

金沢区を選出した理由は、郊外部にも市民が親しめる海岸があるよ、という軽い気持ちからである。

街はその地域地域でいろいろな表現を有しているが、金沢では、今夏開業予定のシーサイドラインや八景島などがある。こうしたインフラ整備を念頭におきつつ、それらを補強、補完する多くのアイデアのうち、代表的な四案を選んで紹介するものである。

ならば、これからの都市の魅力とは、基盤整備はもとより、これと同時に並行的に進められるソフト部門の整備が相乗効果をもたらすと確信するからである。

金沢区には、過去の調査等においても、整備すべき多数の課題が指摘されているが、本研究においては、市民意識と生活行動の多様化を背景として、水際線の多目的利用に焦点を絞り、「憩いとゆとり」をテーマに以下に述べる整備プランを検討したのである。

### 三——埋め立て海岸線の変遷

本市の区域で東京湾に臨む海岸線は、戦前から最近に至るまでの埋め立て事業で、そのほとんどは内陸化し、代わりに人工的な水際線が陸部と海部を分ける境界となっている。

そして、この埋め立ては、主に産業振興の名の下にいわゆる京浜工業地帯を形成する結果となった。

金沢区の埋め立ては、前記のものとはやや性格を異にし、その特徴は、住宅・軽工業・公園など複合機能を発揮する目的を有している。その中で、水際線は、船舶のバース用・輸入木材の貯木場に始まって、本研究の対象地域では、ヘリポート、人工島、人工海浜、漁業用小型船

船並びにプレジャーボートのけい留等その利用は多彩である。

このように金沢区臨海部の埋め立て目的は、時代の進展とともに、工場用地型から生活空間型に変化しつつある。

これは、わが国の経済が、高度成長期から安定成長型へ移行する過程の中で、市民生活が余暇時代に突入した社会情勢と大きなかわりがある。

すなわち、人々の求める対象は、自分のライフサイクルを豊かに過ごせるモノに移行しつつある。

そのモノとは、決して物質的なものだけではなく、精神的なものも含まれているのである。

そのような意味で、海を生かしたレクリエーション・プロジェクトは、心に訴える効果が大きいと思われる。

企業や港湾施設で利用されてきた海岸線が、これからは人々のために開放され、利用される流れは定着するだろう。

しかし、そのような流れの中で最も重要なことは、コンセプトといわれる明快なテーマを市民的合意を得て、保ち続けることである。

新しい海とのかかわりは、始まったばかりである。

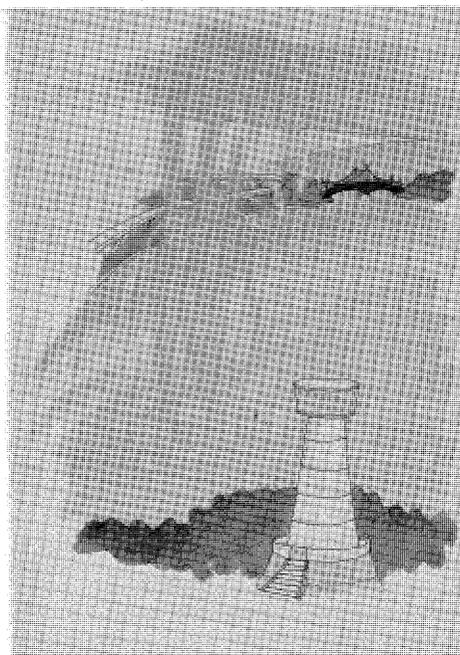
### 四——金沢臨海公園のモニュメント ——「洋上大噴水」

海の公園（浜部）、八景島そして野島公園の三方に囲まれた洋上（海面）は、金沢臨海部を象徴する貴重なキャンパスとなっている。

それは、この残された「空白」をどのような色付けをするかによって、本市の21世紀に対する取組み姿勢が問われる、とも言える。

私達は、ここに、海水を使った洋上の大噴水を設置することこそ、最善の事業と考えている。その概要を説明する。

イメージ図-1 洋上大噴水



まず目的は、周囲が莫大な費用を投じて整備された環境であるため、市内外を問わず、出来る限り多くの人々——老若男女を問わず——を惹きつけるシンボリックな「仕掛け」として設置する。

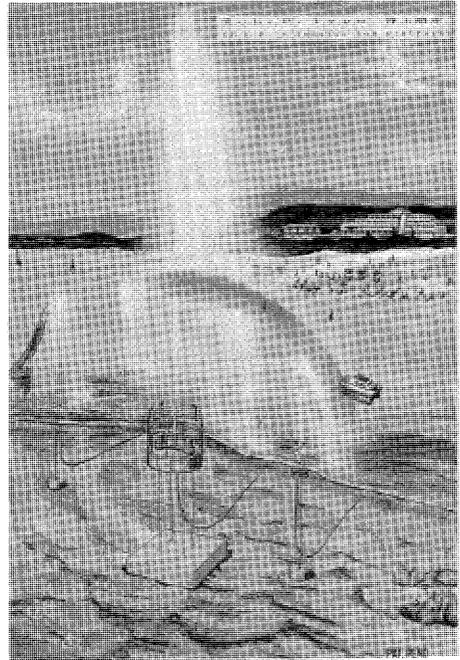
設置場所は、前述のように、浜部の真正面とすれば、あらゆる角度・位置からの眺望は可能であり、また、シーサイドラインの車窓の位置からも楽しむことが出来る。

装置は、荒天時もあることから、移動式<sup>注</sup>とし、噴水能力は、レマン湖級の百二十メートルのダブルまたはトリプルのもものが景観上も美しい。

そして、これにコンピューターを連動させたライトアップシステムを加味すれば、特に夏の夜の涼を求める人々は、水に対する考え方を変えるに違いない。

費用は、概算で約十億円の巨費を要するが、臨海公園が後世に残る事業とするためには、その文化的価値を高めるためにも惜しむ必要はない。

イメージ図-2, 3 洋上大噴水



いであらう。

(注) 移動式噴水

使用時は、海水を入れた巨大なオモリを海

中に沈め、噴水装置とはチェーンで結ばれている。荒天時は、オモリの中の海水を排水して、安全な場所に避難させることが可能である。

### 五——八景と海の公園間の散歩道

#### ——「平潟ベイサイドプロムナード」

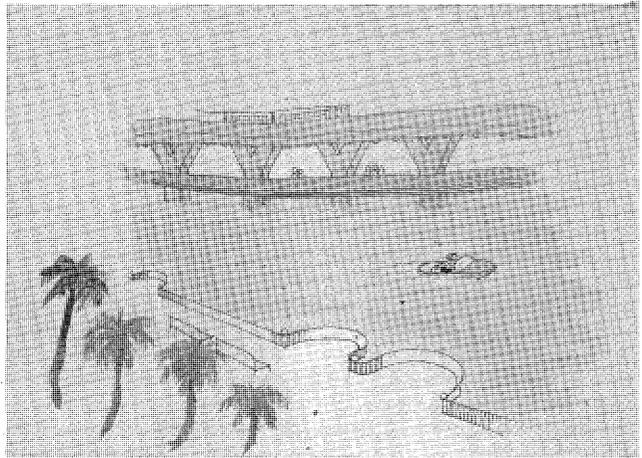
金沢八景駅は、金沢区の核となる商業ターミナル拠点であり、京浜急行を利用する人々は、ここからリゾート拠点である海の公園へと向かうことになる。

両拠点は、シーサイドラインによるアクセスが予定されているが、この建設工事を機に「平潟ベイサイドプロムナード」の整備を行い、海沿いの活性化を図るとともに、「そぞろ歩く」ことの楽しさを市民に提供する。

プロムナードは、平潟湾南岸、金沢八景駅から夕照橋までの区間とする。これは、新交通の橋桁による海と岸の分断に対し、海側の歩道を拡張し、既存の植栽を、例えばシユロやヤシに取り替えて、海に向かって開かれたゆとり空間を創生する。

そして、数カ所のポケットパークの他、大きく弓型に張り出した「シーサイドカフェテラス」を新設し、人々がたたずみ、語り合えるスポッ

イメージ図-4 平潟ベイサイドプロムナード



トとする。

一方、海の公園への直結ルートとして、「海上散歩道（スカイウォーク）」を提案する。

これは、平潟湾を横断するシーサイドラインの橋脚部分を利用した、新たな歩行者専用通路を新設するものである。

この歩行者ルートの効果は、時間をかけて歩くこと自体を楽しむ空間の演出にある。

加えて沿道の土地利用へのインパクトにもなり、平潟湾自体を浄化しようという動きも期待

できる。

もはや海の公園は、夏だけのリゾートにとどまらず、オールシーズンのレクリエーションゾーンとして利用するべく、周辺の環境整備を行う必要がある。

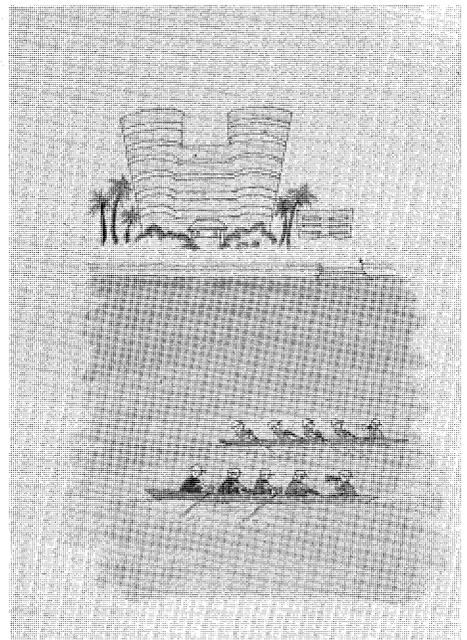
この散歩道の構想は、その一つの提案である。

#### 六——海を舞台とした青少年

##### の健全育成

#### 野島研修センターの建設

イメージ図-5 野島研修センターレガッタ訓練



総理府の国民生活白書によれば、余暇時代に欲しい施設として、学習センターがその一つとして挙げられている。

市民一人ひとりが豊かなライフサイクルを送りたいと願う中に、学習施設があるのは、何も大人だけの問題ではなく、次代を担う青少年側からも求められている。

そこで、私達は、現在の野島研修センターに代わる、新たな研修・宿泊施設の建設を提案する。

建設予定地は、明治憲法起草の地とされている野島運河と海に面する公園内とし、ここに五

百人程の宿泊を可能とする青少年館を建設するものである。

これは、市内のみならず、遠く市外の青少年も修学旅行の宿泊地として利用するとの観点から、規模を大きくしたものである。

このような滞在型施設の利用者は、従来の名所旧跡の見学旅行とは異なった課外学習を体得できるであろう。

例えば、ホールでは最新の技術を駆使した海洋知識を学び、また指導員の下に行われる「野島・八景島レガッタ大会」にも参加できるのである。

海の公園浜部での海浜運動会、野島公園でのキャンプ体験、そして、夜は、ライトアップさ



提案する。

具体的イメージとしては、本来のビューポイントとしての機能は、当然維持することとして、その他に、例えば四階部分はレストラン、三階部分は陽光がふんだんに入るアトリエや読書室、そして二階はミーティングフロア、地上部では常時開放を前提としたアトリウムなどを検討している。

そして、建物のデザインは、緑の丘に映える白亜の燈台型はどうだろうか。

さて、次は、旧海軍のトンネル活用である。

横浜は、宇崎竜童や柳ジョージなどのミュージシャンを産み出す潜在的能力を有している。彼らの創りだす音楽は、ジャズでありロックであり、そして若者達のハートを痺れさす何物かを持っているのだ。

そこで、私達は、このトンネル内部を文字通

りアングラの劇場に転換することを考えた。

若干の内部の工事は当然としても、重要なことは、本市が、演奏者や聴衆のために、その施設と環境を提供することである。

周囲への音などの配慮は、防音壁などで完全に遮断できるのであるから、駐車場等に利用する案より、若者文化を育てるという意味では非実現する必要がある。

八——おわりに

母なる海という言葉がある。

今も昔も、一人ひとりの人間にとって海はかけがえのないものであり、希望を与えてくれる源泉である。

私達は、レクリエーションゾーンとして整備が進められている金沢の海に、市民的な感覚で

思いを寄せている。

こんなものがあつたら何度でも行きたいな、という発想で研究を続けてきた。

四つの提案はいずれもその代表例であり、その他にも図のようにいくつか考えている。

横浜の与えるイメージが、山下公園だけに固定化されるのではなく、これからは郊外部の開発整備が質的・量的に拡大されることによって、21世紀の横浜が形成されるであろう。

私達グループも、次は「父なる大地」の創生に向かって、今後も研究活動を続けていきたい。

△松本〓都市計画局開発計画課、済田〓同局管理課、本田〓同局総務課、中川〓建築局住宅計画課、湯川〓衛生局緑保健所衛生課、関口〓金沢区課税課▽